

みどりとひと



No.129 みどりの新聞 平成16年11月1日 発行



鎮守の杜に秋がきた……

猛暑の夏から「実りの秋」に……多くの古木の葉っぱが重なり合い、昼なお鬱蒼としている「鎮守の杜」を散策してみましょ。

青梅街道を田無方面に足を運んで行くと、大きな樹林と大鳥居・東参道が眼に飛び込んで来る。文治五年八月（1189）源頼朝が大軍を率いて奥州征伐に向かう途中、戦勝を祈願したと伝えられているのが、創建以来約九百余年の歴史ある井草八幡宮です。

今夏の強烈な暑さに耐え抜いた木々たちも秋の到来にホッと「灼熱の陽光で枯れるかと思ったよ!」「葉っぱが抜けて枯れはじめて慌てたよ!」などの会話が交わされて……秋風が樹木の気持ち伝えてくれる今日この頃……

約三万三千平米（約一万坪）はある広大な境内には、約140種余の植物が生茂り、自慢の出来る自然溢れる「鎮守の杜」を持ち、都内十大社の一つと言われています。

この杜は年輪を重ねた古木が多く、明治大正年間にかけて氏子による献木がなされ、今日の「豊かな杜」として育てられ今日に至っています。

東参道はクスノキを主にした常緑樹林、足を進めて楼門周辺に来るとイチヨウ、ケヤキ、ニセアカシア、シラカシ、サンゴジュなどの落葉樹と常緑樹が混じった林に、境内はスタジイ、クスノキ、ムクノキなどが生茂って自然がいっぱい溢れています。

境内にはシダレウメ、サザンカなどの花が咲き、北参道脇の桜並木は開花の時期だけ一般に開放され眼を楽しませてくれます。秋にはイチヨウ、モミジなどが色つき四季の変化を楽しめます。

恒例の秋祭りが盛大に……木々も「祭太鼓・笛のリズム」を楽しんで……秋が深まり本紙が手元に届く頃には、参道は落葉のジュータンが敷きつめられ、冬の到来近しか……



緑陰に集う 「都市のみどりを守る」 緊急フォーラム開催

▲アピールを発表する
山田区長



▲基調講演をする
石原大臣

「みどりのアピールin 杉並 2004」

大都市東京の緑化推進を図るため、隣接する都市をみどりのベルトで結びます。そのために、公園緑地や街路樹、河川沿いのみどりと、屋敷林や貴重な樹木、生垣、社寺林、農地、民間グラウンドなどのみどりを相互に結び、連続したみどりを保全・創出します。

大都市東京の緑化推進と緑地保全を図るため、特に、全国市長会、特別区長会で要望している保存樹林地等に対する相続税等に関する軽減措置の一層の改善、生産緑地に関する特別措置の改善、緑地保全を図るための財政措置の早期実現を求めます。

大都市東京の緑地保全を図るため、国と連携し、自治の観点から新しい施策を波及します。その一つとして、国が中心となる自治体横断的な研究会を設置し、屋敷林や貴重な樹木、生垣、社寺林、農地、民間グラウンドなどのみどりが果たす都市環境保全の重要性に焦点を当てた研究を行ない、早急に新しい税の減免制度などの創設を要望します。

私達は、今日を起点に今後とも引き続きフォーラムを開催し、運動を強め、都市のみどりを守り、みどり豊かな環境を次の世代に引き継ぐことを誓います。

平成 16年 8月 24日

「都市のみどりを守る」緊急フォーラム参加自治体

大田区長	西野 善雄
練馬区長	志村 豊志郎
武蔵野市長	土屋 正忠
杉並区長	山田 宏



▲出演者



▲フルート演奏する
上野さん



▲司会の松田さん



▲会場風景

「都市のみどりを守る」緊急フォーラムが、開園間近の柏の宮公園（4面参照）にて、8月24日開催されました。素晴らしい盛り上がり、猛暑にもめげず、300名分の椅子席は、開始前に満杯となり、およそ600名の参加者があり、みどりについての関心の高さが脈打っていた2時間でした。国土交通大臣、杉並区長の他、東京都西域の区長、市長や区内の屋敷林所有者も交え、松田輝雄さんの司会にて、緑化推進と緑地保全などについての政策や意見が交換され、みどりのアピールin杉並2004が採択されました。木陰では涼風が気持ちよく、緑の樹木により夏は外気温を下げ、冬は寒風を防ぐ天然の効果があります。会場では、上野星矢さんのフルート演奏、みどりのボランティア杉並のパネル展示や「みどりの基金」の募金活動が行われました。

緑の歳時記

マテバシイ（ブナ科）別名サツマジイ

関東南部以西、四国、九州の沿海地に生え、高さ約10～15メートルにもなる常緑高木です。

各地の人家や公園に、また街路樹として植えられます。樹皮は、暗褐色で、なめらかです。葉は全縁（鋸歯なし）で、表面は厚い革質の深緑で光沢があります。裏面は、灰緑褐色です。長さ8～18センチメートル、巾3～8センチメートルの大変大きな葉です。花は6月頃、葉腋（葉の付け根の部分）から上向きに長い穂状花序をだし、黄褐色の小花をたくさんつけます。

堅果（ドングリ）は翌年の秋に熟し、長さ2～3センチメートルの楕円形で基部を鱗片に覆われた椀状の浅い殻斗（ドングリの帽子）に包まれています。身の形がマテ貝に似ていることや、全手葉椎の意味からこの名前が付けられました。

果実は食用にされ、茹でて、煎っても大変おいしいです。木は建築材、器具材、シイタケのほだ木として利用され、かつては薪炭材や防風樹、防火樹としてよく植えられました。

杉並区内では、井草森公園、善福寺川緑地などで観察することができます。



みどり探訪

ブナとピンオークの貴重木 ～善福寺のA邸～



みどり再発見

杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。

陽のあたる空間を求めて枝を上げ、たくましく生長した2本のブナが、寄りそうように立っています。陽を受けた樹皮は、白く輝きまぶしい。樹齢は55年余りという。まだ生長途上であるが、胸高での幹回りは1.8メートル。長野から取り寄せ移植した種々の草木の一つで、現在に生長したもの。

それは善福寺四丁目のA邸にあり、区の貴重木として指定されています。落葉広葉樹のブナは四季の顔を持ち、なかでも秋の紅葉が最も美しく、厚いアルバムにはその姿が数多く収められていました。「ブナの落葉で、子供たちと焼いた焼イモの味はなつかしい。」と、ご夫人はアルバムを眺めながら回想されていました。

庭の奥まった場所に、北米産ピンオークがあります。これも区の貴重木として指定されており、見落としてはならない1本です。

三ニ山野ともいえる庭園には、今でも、夏、夜になると、たぬきが親子連れで出没する光景が見られるそうです。

かし みや 柏の宮公園 が開園しました！

杉並区立柏の宮公園
所在地 浜田山2-5-1 管理事務所 ☎3329-5686

平成14年10月より造成工事を行っていた旧日本興業銀行グランド跡地（浜田山2丁目5番1号）が平成16年10月30日に「柏の宮公園」として開園いたしました。面積は約4.3haで、区立公園としては一番大きな公園です。柏の宮公園は計画段階より数多くの区民の方に参加していただき公園づくりを進めました。

杉並区の特徴風景である雑木林の保存・創出に加え、多様な遊びができる草地広場や疎林広場、身近な動植物を観察できる水生生物の池、豊かな樹林に囲まれた茶室や日本庭園、災害用トイレ、防災倉庫などから成る防災公園の誕生です。

今後は区民の皆さんと一緒に、地域に愛される公園となるよう育てていきます。



交通：井の頭線浜田山駅下車徒歩7分
南北バスすぎ丸さくら路線（浜田山～下高井戸路線）
柏の宮公園入口バス停下車徒歩5分
駐車場はありません

専門家に聞く 園芸ワンポイント

「庭木の手入れ」

今年の夏は記録的な猛暑に見舞われ、植物の生育にも大きなダメージを受けたものがたくさんありました。立枯れしているもの、枝枯れしているもの、葉焼けして赤茶けているもの等が見受けられます。

これらの見苦しいもの、徒長枝（生育枝のうち、特に生育が早く、長大に伸びる枝）などを整理し、姿よく整えましょう。

刈り込み、手入れの仕方

立枯れた木の撤去

残念ながら手入れではなく、処分の対象です。跡地利用を考え、根際からの伐採ではなくできるだけ根も一緒に撤去する方がよいでしょう。地上部、地下部を別々に行うと、後々撤去のための費用負担が大きくなってしまいます。

刈り込みが必要なもの

密生した枝の間引き。枯れ枝の切りとり。病害虫に

侵された枝葉の切りとり。徒長枝、立ち枝、からみ枝、逆さ枝とりなど。

刈り込まない方がよいもの

株物を含め、樹木には、その木のもつ独特の樹姿があります。何でもかでも頭を丸めてしまうような刈り込みはさけないものです。コデマリ、キンシバイ、ビヨウヤナギ、ユキヤナギなど、その木のもつよさを取り去ってしまう結果になってしまいます。折角、花芽をつけた枝を切りとってしまう事にもなりかねません。

サツキ、ツツジなどの花木は、花後1ヶ月後にはすでに来春の花芽が枝先にできています。深切りしたり、一律に刈り込み手入れをすると、せっかくの花芽を切ってしまう事になり、花つきが少なくなってしまいます。その種類独特の性質や樹姿を引き立てるような手入れを心がけましょう。

指導：塚山公園みどりの相談所 福本 伊之助 先生

緑に関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
くさばな
☎3302-9387
(毎週土・日曜日)

<編集後記>

この夏は暑い事も異常でしたが私事でも、2か月間腰を病んで暑い夏に更に辛い思いをしました。健康有ってのボランティア、健康の有りがたさが身にしみました。(淳)

実りの秋に切り放せないのが「お祭り」...杉並を代表する井草八幡宮の「鎮守の杜」にスポットをあててみました。(木)

大規模な柏の宮公園がオープンしました。個人々々の小さなみどりも大切にしていかなければ、と感じます。(中)

記録を更新した暑い夏も去り、公園を散策するにも、楽しい季節となりました。秋号はカラー写真です。如何ですか。(青)

この夏はさすがの私も暑くてふうふうしていました。しかし、植物はすごい！クリをはじめ、マテバシイ、コナラ、スダジイ、シラカシなどの実が豊作となりました。(山)

郷里のプラットホームから、秋到来のシグナルを毎年ながめていた。他に先がけて紅葉する1本の大樹である。今も変わらぬ光景であることを、祈りたい。(鈴)

区の担当から事前に連絡があったので、取材陣数名の訪問を広いお庭に迎え入れて頂き、都内では珍しい「ブナの大木その他」を拝見でき幸いでした。(芦)

みどりの新聞 129号 平成16年11月1日発行

【編集】みどりのボランティア杉並
【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎3312-2111 内線3464
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

2100

PRINTED WITH SOY INK

この印刷物は、大豆インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。